

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。
- d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
※その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

Ⅰ 現代文（評論） 採点基準（合計40点）

問一 9点

（模範解答例）

A①〇 A②〇

フランクは、『夜と霧』で 社会的人間の証しを全て奪われた収容所生活を送りながら

生き延びたことを書いて、〈2点〉

B①〇 B②〇 B③〇

人間が不可避な苦難を強いられた時に、「自由」を失わずに 生き抜くための方法を教

えているので、〈3点〉

C①〇 C②〇 C③〇

大震災で過酷で悲惨な目に遭った日本人にとっても、 状況を乗り越えるための 励まし

と導きを与えてくれるから。〈3点〉

X〈分析〓分けること〉〇1点（9点）

【構造点】

・Xは、傍線部の理由を説明すべく、話題の条件Aを、〈因果関係〉を構成する〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉として説明する構造への評価である。ここでは、条件A、B、Cの内の二種の要素が二つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉のうちの二種二つ以上
〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士で、また各条件内では、この文書冒頭に示した「◎ 内容点の採点に関する基準」に則した形で、部分採点可能である。（8点）

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要素の組み合わせによる意味内容が成立している場合にのみ加点する。（1点）

A 「フランクは、『夜と霧』で社会的人間の証しを全て奪われた収容所生活を送りながら生き延びたことを書いて、」〈2点〉

※ 傍線部の理由説明するための話題の条件。

① 「フランクは、『夜と霧』で」の要素。

○ 「フランクは、『夜と霧』の著作において」「『夜と霧』という作品で、フランクは」などでも可。

× 「フランクの『夜と霧』のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「社会的人間の証しを全て奪われた収容所生活を送りながら生き延びたことを書いて、」の要素。

○ 「社会的人間の条件を奪われた収容所生活を生き延びたことを描いて、」「社会的人間としての存在を奪われた収容所で生き延びた経験を書いて、」などでも可。

× 「社会的人間の喪失」「収容所生活を生き延びる」のニュアンスの二成分が入っていないければ×。

B 「人間が不可避な苦難を強いられた時に、『自由』を失わずに生き抜くための方法を教えているので、」〈3点〉

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく〈因果関係〉の〈因〉の条件。

① 「人間が不可避な苦難を強いられた時に、」の要素。

○ 「人間が避けられない苦難を強制された際に、」「人間が何らかの力によって回避できない苦難に向かわされた時に、」などでも可。

× 「不可避な苦難を強いられる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「『自由』を失わずに」の要素。

× 「『自由』の喪失の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「生き抜くための方法を教えているので、」の要素。

○ 「生き抜く仕方を教示しているので、」「生き抜き方を示唆してくれているので、」などでも可。

× 「生き抜くため方法を教える」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「大震災で過酷で悲惨な目に遭った日本人にとっても、状況を乗り越えるための励ましと導きを与えてくれるものだから。」〈3点〉

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく〈因果関係〉の〈果〉の条件。

① 「大震災で過酷で悲惨な目に遭った日本人にとっても、」の要素。

○ 「震災下の過酷な日々を経験した日本人にとっても、」「大震災で悲惨な運命を経験した日本人に対しても、」などでも可。

× 「大震災で過酷な（あるいは悲惨な）目に遭った日本人」のニュアンスの成分が

入っていないければ×。

② 「状況を乗り越えるための」の要素。

- 「状況を克服するための」「苦難に打ち勝つための」などでも可。
- × 「状況の乗り越え」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「励ましと導きを与えてくれるものだから。」の要素。

- 「支援を与え、向かうべき道を示唆してくれるものだから。」「活力を与え、行くべき筋道を示してくれるものであったから。」などでも可。
- × 「励まし(あるいは導き)を与えてくれる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

問二 11点

(模範解答例)

A ①〇

A ②〇

生きる意味に対する人間の態度の根本的な転回であり、生きる意味への問いを百八十

度方向転換して、〈2点〉

B ①〇 B ②〇

私たちが 生きることからなにを期待するかではなく、〈2点〉

C ①〇 C ②〇

生きることが 私たちからなにを期待しているかを問題として、〈2点〉

X へ分析 〓 分けること 〓 〇 1点

D ①〇

D ②〇

D ③〇

つまり思考や言葉ではなく、ひとえに行動によって、また適切な態度によって 正しい

答えを出していくということ。〈3点〉

Y へ総合 〓 まとめること 〓 〇 1点 (11点)

【構造点】

・ Xは、傍線部「人生の『コペルニクスの転回』を説明すべく、概要としてのAの条件を、〈notP~butQ〉の構文を形成する〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析 〓 分けること 〓 して説明する構造への評価である——〈notP~butQ〉の構文は、例えば〈男じゃないよ、女だよ〉のように、否定の要素〈not〉を含むために、〈男じゃない〉 〈女だよ〉となって〈矛盾〉を排除してしまう。よって〈notP〉と〈butQ〉の〈矛盾〉しない二条件からなる〈分析 〓 分けること 〓 の構造を形成する——。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種以上の要素が二つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとき、なして1点加点。()

X へ分析 〓 分けること 〓 へAの要素、Bの要素、Cの要素 〓 の内の二種以上の要素が二つ以上 〇 1点

・ Yは、B、Cの二条件をDに〈総合 〓 まとめること 〓 し、結論づける構造への評価である。ここでは、Dの要素があればこの構造の骨組みが暗黙裡に形成されているとみて1点加点。

Y へ総合 〓 まとめること 〓 Dの要素 〇 1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また各条件内では、この文書冒頭に示した「◎」内容点の採点に関する基準」に則した形で、部分採点可能。(9点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点)

A 「生きる意味に対する人間の態度の根本的な転回であり、生きる意味への問いを百八十度方向転換して、」へ2点

※ 傍線部中の「人生の『コペルニクスの転回』」の概要を説明する条件。

① 「生きる意味に対する人間の態度の根本的な転回であり、」の要素。

○ 「生きる意味について、姿勢を根源的に転換することであり、」「生きる意味についての人間の考え方の大変換であり、」などでも可。

× 「生きる意味の根本的な転回」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「生きる意味への問いを百八十度方向転換して、」の要素。

○ 「生きる意味への問いを正反対に展開して、」「生きる意味を逆転させて問い、」などでも可。

× 「生きる意味への問いの百八十度方向転換」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「私たちが生きることからなにを期待するかではなく、」へ2点

※ Aを説明する、〈notP〉の条件。

① 「私たちが」の要素。

× 「私たち」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「生きることからなにを期待するかではなく、」の要素。

○ 「生きること」に何かを求めるのではなく、「生きることから何かを得ようとするのではなく、」などでも可。

× 「生きることからなにかを期待する」の否定のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「生きることが私たちがからなにを期待しているかを問題として、」へ2点

※ 傍線部を説明する〈butQ〉の条件。

① 「生きることが」の要素。

× 「生きること」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「私たちがからなにを期待しているかを問題として、」の要素。

○ 「私たちになにを期待しているかを焦点化し」、「私たちに何を要請しているかを問題として捉え、」などでも可。

× 「私たちからなにを期待しているか」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

D 「つまり思考や言葉ではなく、ひとえに行動によって、また適切な態度によって正しい答えを出していくということ。」

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「つまり思考や言葉ではなく、」の要素。

○ 「思考でも言葉でもなく、」要するに、考えや言辞によるのではなく、「などでも可。

× 「思考あるいは言葉」の否定のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「ひとえに行動によって、また適切な態度によって」の要素。

○ 「もっぱら行動や態度によって」「行動や姿勢によってこそ」などでも可。

× 「行動あるいは態度による」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「正しい答えを出していくということ。」の要素。

× 「正しい答え」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

問三 11点

(模範解答例)

A ①〇

A ②〇

A ③〇

震災下の日本において、

思考や言辞を弄することなく、

生きる意味を行動すること

に求めて、〈3点〉

B 〇

C ①〇

C ②〇

C ③〇

C ④〇

C ⑤〇

その転回の経験を実感するだけでなく、〈1点〉

物理的な援助、

また言葉によるねぎらいや励ましを

被災者に向け、

あるいは「自由

に」基づく、

そうした高貴な行為を見たならば、

「義務」として、

苦難を強いられて

絶望している人々に伝えること。〈6点〉

X 〈分析〳分けること〉〇1点 (11点)

【構造点】

・Xは、傍線部の「この一節」が「震災下の日本で」持つ意味の概要であるAを、〈not only P ~ but also Q〉の構文をなす〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〳分けること〉として説明してゆく構造への評価である——〈not only P ~ but also Q〉〳〈PだけでなくQも〉の二条件〈not only P〉と〈but also Q〉には原則的に〈矛盾〉は入ってこないのので、〈分析〳分けること〉の構造をつくる——。ここでは、〈Aの要素、条件B、Cの要素〉の三要件のうち二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立していると見て1点加点。

X 〈分析〳分けること〉 〈Aの要素、B、Cの要素〉の三要件の内の二種二つ以上 〇
1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また条件A、C内では、この文書冒頭に示した「◎ 内容点の採点に関する基準」に則した形で、部分採点可能。(10点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した条件、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(1点)

A 「震災下の日本において、思考や言辞を弄することなく、生きる意味を行動することに求めて、」〈3点〉

※ 傍線部の「この一節」が「震災下の日本で」持つ意味の概要の条件。

① 「震災下の日本において、」の要素。

× 「震災下の日本」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「思考や言辞を弄することなく、」の要素。

○ 「思考や言葉に流れることなく、」考えや言葉を弄ぶのではなく、」などでも可。

× 「思考(あるいは言辞)を弄する」の否定のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「生きる意味を行動することに求めて、」の要素。

○ 「行動することこそ生きる意味を探り、」生の意味を行動以外には求めず、」などでも可。

× 「生きる意味を行動に求める」のニュアンスの成分が入ってなければ×。

B 「その転回の経験を実感するだけでなく、」〈1点〉

※ Aをさらに説明してゆく〈not only〜but also〉の構文の〈not only〉の条件。

○ 「その転換の経験を実体験するだけではなく、」その移行の体験を実感するに留めずに「」などでも可。

× 「転回の経験を実感する」のニュアンスの成分が入ってなければ×。

C 「物理的な援助、また言葉によるねぎらいや励ましを被災者に向け、あるいは「自由」に基づく、そうした高貴な行為を見たならば、「義務」として、苦難を強いられて絶望している人々に伝えること。」〈6点〉

※ Aをさらに説明してゆく〈not only〜but also〉の構文の〈but also〉の条件。

① 「物理的な援助、」の要素。

○ 「物質的な援助、」物品による手助け、」などでも可。

× 「物理的な援助」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「また言葉によるねぎらいや励ましを」の要素。

○ 「また思いやりのある言葉をかけることを」「言葉による慰労や激励を」などでも可。

× 「思いやりのある言葉」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「被災者に向け、」の要素。

× 「被災者に向ける」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「あるいは『自由』に基づく、そうした高貴な行為を見たならば、」の要素。

○ 「または『自由』からする高貴な行為をみかけたなら、」「『自由』から発する『英雄』的な行為を目撃したならば、」などでも可。

- × 『自由』に基づく高貴な行為を目撃」のニュアンスの成分が入っていないなければ×。
- × 『義務』として、「」の要素。
- × 『義務』として」のニュアンスの成分が入っていないなければ×。
- 「苦難を強いられて絶望している人々に伝えること。」の要素。
 - 「苦難の生に置かれている人々に伝えること。」「受難のなかで絶望している人たちに伝えること。」などでも可。
 - × 「苦難を強いられている（あるいは絶望している）人たちに伝えること。」のニュアンスの成分が入ってなければ×。

問四 9点

(模範解答例)

A ①〇

A ②〇

寒さに凍えながら隣を歩く仲間がふともらした、

妻たちの収容所はもつとまじだどよ

い、また自分たちがどうなっているかを妻に知られたくない、という言葉に、〈2点〉

B ①〇 B ②

フランクは 妻を案じるだけでなく、〈2点〉

C 〇

自分のことで伴侶を苦しめたくない、〈1点〉

X へ分析〓分けること〓〇1点

D ①〇

D ②〇

という小さいが、しかし高い愛の表現を見出し、

強い共感を覚えたから。〈2点〉

Y へ総合〓まとめること〓〇1点 (9点)

【構造点】

・ Xは、フランクが傍線部のように言う理由を説明すべく、話題のAを、B、Cの〈not only P ~ but also Q〉の構文を構成する〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〓する構造への評価である。ここでは、Aの要素、Bの要素、条件Cの三要件の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X へ分析〓分けること〓 Aの要素、Bの要素、Cの三要件のうちの二種二つ以上 〇1点

・ Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〓する構造への評価である。ここではDの要素が、あればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y へ総合〓まとめること〓 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件A、B、D内では、この文書冒頭に示した「◎ 内容点の採点に関する基準」に則した形で、部分採点可能。(7点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素の組み合わせ、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点)

A 「寒さに凍えながら隣を歩く仲間がふともらした、妻たちの収容所はもっとまじだどよい、また自分たちがどうなっているかを妻に知られたくない、という言葉に、」〈2点〉
※ 傍線部のようにフランクルがいう理由を説明するための、話題提示の条件。

① 「寒さに凍えながら隣を歩く仲間がふともらした、」の要素。

○ 「寒さに震えながら隣の仲間がふと口にした、」「寒さの中で隣を歩く仲間がつぶやいた、」などでも可。

× 「寒さの中で仲間がもらした」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「妻たちの収容所はもっとまじだどよい、また自分たちがどうなっているかを妻に知られたくない、という言葉に、」の要素。

○ 「妻たちの収容所のことを心配し、また自分たちの状況を妻に知られたくない、という言葉に、」「妻たちの収容所がよりよい状況であることを願う。また自らの置かれた状況を妻には知られたくない、という言葉に、」などでも可。

× 「妻の状況を心配する一方で、自分の状況を妻に知られたくない、という言葉に、」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「フランクルは、妻を案じるだけでなく、」〈2点〉

※ 傍線部のようにフランクルがいう理由を説明すべく、Aを説明してゆく〈not only〉の条件。

① 「フランクルは、」の要素。

× 「フランクル」の成分が入っていないければ×。

② 「妻を案じるだけでなく、」の要素。

○ 「妻のことを心配するのみならず、」「妻への配慮をするだけでなく、」などでも可。

× 「妻を案じるだけではない」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「自分のことで伴侶を苦しめたくない、」〈1点〉

※ 傍線部のようにフランクルがいう理由を説明すべく、Aを説明してゆく〈but also〉の条件。

○ 「自分の苦しみのことで伴侶心配させたくない」「自分の境遇を知ることによって妻を悲しませたくない、」などでも可。

× 「自分のことで伴侶を苦しめる」ことの否定のニュアンスの成分が入っていないければ×。

- D 「**という小さいが、しかし高い愛の表現を見出し、強い共感を覚えたから。**」〈2点〉
- ※ B、Cをまとめて、傍線部のようにフランクが言う理由として結論づける条件。
- ① 「**という小さいが、しかし高い愛の表現を見出し、**」の要素。
- 「**という小さな、だが気高い愛の表現を発見し、**」というささやかだが、崇高な愛の表現を見出し、」などでも可。
- × 「(小さいが、)高い愛の表現を発見」のニュアンスの成分が入っていないければ×。
- ② 「**強い共感を覚えたから。**」の要素。
- 「心が強く共鳴したから。」「強いシンパシーを感じたから。」などでも可。
- × 「共感」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

□ 現代文（小説）採点基準（合計35点）

問一 9点

（模範解答例）

A ①〇

A ②〇

谷間中に半鐘の透き通った木霊が繰り返し響き渡ることで、悲しいことが起こったこ

A ③〇

とを 緊迫感を持って告知知らせ、〈3点〉

B ①〇 B ②〇

政五郎の葬儀という 悲しい話が始まることを伝えるとともに、〈2点〉

C ①〇

とても人間らしく、より善く生きた、お人好しを絵に描いたような政五郎に対する 村人

C ②〇 C ③〇

の讚美の気持ちを あらかじめ表現するという効果。〈3点〉

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉〇一点（9点）

【構造点】

・Xは、傍線部の表現上の効果を説明すべく、話題のAを〈矛盾〉する二条件B、Cに、いわば引き裂いて説明してゆく〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内二種以上二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加算。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の二種以上二つ以上

〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また各条件内では、この文書冒頭に示した「◎ 内容点の採点に関する基準」に則した形で、部分採点可能。（8点）

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加算する。（一点）

A 「谷間中に半鐘の透き通った木霊が繰り返し響き渡ることで、悲しいことが起こったことを緊迫感を持って告知知らせ、」〈3点〉

※ 傍線部の表現上の効果を説明するための話題の条件。

① 「谷間中に半鐘の透き通った木霊が繰り返し響き渡ることで、」の要素。

〇 「谷間に何かを叩くよく透き通った木霊が響き、」半鐘を叩いた透き通った木霊が谷間に響き渡り、」などでも可。

- × 「(谷間に) 木霊が響き渡る」ニュアンスの成分が入っていないければ×。
- ② 「悲しいことが起こったことを」の要素。
 - 「悲しい出来事の発生を」「嘆くべきことが起こったことを」などでも可。
 - × 「悲しいことが起こった」のニュアンスの成分が入っていないければ×。
- ③ 「緊迫感を持って告知らせ、」の要素。
 - 「緊急性をもって告知し、」「切迫した感じで報知し、」などでも可。
 - × 「緊迫感のある告知」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「政五郎の葬儀という悲しい話が始まることを伝えるとともに、」〈2点〉

※ 傍線部の表現効果を説明すべく、Aを説明してゆく一方の条件。

- ① 「政五郎の葬儀という」の要素。
 - 「政五郎の通夜という」「政五郎の葬式という」などでも可。
 - × 「政五郎の葬儀」のニュアンスの成分が入っていないければ×。
- ② 「悲しい話が始まることを伝えるとともに、」の要素。
 - 「悲しい出来事が展開することを予告するとともに、」「悲しい物語が始まることを予知させるとともに、」などでも可。
 - × 「悲しい話(の開始を伝える)」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「とても人間らしく、より善く生きた、お人好しを絵に描いたような政五郎に対する村人の讚美の気持ちをあらかじめ表現するという効果。」〈3点〉

※ 傍線部の表現効果を説明すべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

- ① 「とても人間らしく、より善く生きた、お人好しを絵に描いたような政五郎に対する」の要素。
 - 「人間らしく、善良に生きた、まさしくお人好しであった政五郎に対する」「善良な人間として生き、お人好しそのものであった政五郎への」などでも可。
 - × 「(人間らしい、善良、お人好し)の少なくとも一つ」の政五郎)「ニュアンスの成分が入っていないければ×。
- ② 「村人の讚美の気持ちを」の要素。
 - 「村人の称賛の気持ちを」「村人の褒め称える心情を」などでも可。
 - × 「(村人の) 讚美の気持ち」のニュアンスの成分が入っていないければ×。
- ③ 「あらかじめ表現するという効果。」の要素。
 - 「予示しておくという効果。」「暗示しておくという効果。」などでも可。
 - × 「予め表現する効果」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

問二 8点

(模範解答例)

A ①〇

政五郎の幼馴染みで無二の親友であり、その借金の保証人になったために政五郎一家を

A ②〇

共倒れに追い込んでしまった相手が お詫びの手紙をよこしてきた時に、 政五郎が夜逃

A ③〇

げた一家のことを心配していたと人づてに聞き、 へ3点

B ①〇

B ②〇

政五郎のお人好しぶりに あきれ果てる一方で、 へ2点

C ①〇

C ②〇

その善人ぶりに ある種の感動も覚えていたから。 へ2点

X へ逆説 矛盾を含むこと 〇1点 (8点)

【構造点】

・Xは、傍線部のように「お爺ちゃん先生」が言う理由を、事情の条件であるAを、〈矛盾〉する二条件B、Cの心情に引き裂いて説明して行く〈逆説 矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉が二種以上二つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X へ逆説 矛盾を含むこと へAの要素、Bの要素、Cの要素 内の二種以上二つ

以上 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また各条件内では、この文書冒頭に示した「◎ 内容点の採点に関する基準」に則した形で、部分採点可能。(7点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(1点)

A 「政五郎の幼馴染みで無二の親友であり、その借金の保証人になったために政五郎一家を共倒れに追い込んでしまった相手がお詫びの手紙をよこしてきた時に、政五郎が夜逃げした一家のことを心配していたと人づてに聞き、」へ3点

※ 傍線部のように「お爺ちゃん先生」がいう理由を説明するため事情の条件。

① 「政五郎の幼馴染みで無二の親友であり、その借金の保証人になったために政五郎一家を共倒れに追い込んでしまった相手」の要素。

○ 「政五郎の幼馴染みで、政五郎がその借金の保証人であったために政五郎一家を共倒れに追い込んだ相手」 「政五郎の無二の親友で、その借金の保証人になったために政五郎一家が共倒れに追い込まれた、その相手」などでも可。

× 「政五郎の幼馴染み(あるいは無二の親友)で、借金の保証人になったために政五郎一家が共倒れに追い込まれた」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「お詫びの手紙をよこしてきた時に、」の要素。

○ 「詫び状を送ってきた時に、」お詫びの手紙を送付してきた時に、」などでも可。

× 「詫び状の送付」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「政五郎が夜逃げした一家のことを心配していたと人づてに聞き、」の要素。

○ 「政五郎が夜逃げ一家の心配をしていたと聞き、」夜逃げした一家のことを政五郎が心配していたと聞き及んで、」などでも可。

× 「夜逃げ一家のことを政五郎が心配していたと聞く」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「政五郎のお人好しぶりにあきれ果てる一方で、」〈2点〉

※ 傍線部のように「お爺ちゃん先生」がいう理由を説明すべく、Aの事情に向けて「お爺ちゃん先生」の抱いた心情の一方を説明する条件。

① 「政五郎のお人好しぶりに」の要素。

○ 「政五郎のあまりの人のよさに」「政五郎のあまりの善人ぶりに」などでも可。

× 「政五郎のお人好しぶり」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「あきれ果てる一方で、」の要素。

○ 「あきれかえる一方で、」「あきれてもものも言えないながら、」などでも可。

× 「あきれ果てる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「その善人ぶりにある種の感動も覚えていたから。」〈2点〉

※ 傍線部のように「お爺ちゃん先生」がいう理由を説明すべく、Aの事情に向けて「お爺ちゃん先生」の抱いた心情で、Bとは〈矛盾〉する条件。

① 「その善人ぶりに」の要素。

× 「善人ぶり」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「感動も覚えていたから。」の要素。

× 「感動」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A ○

末娘の孝子が政五郎さん夫婦なら助けしてくれるかもしれないと言うので、〈1点〉

B ① ○

駄目でもともと、駄目なら断られてから一家で首を吊っても遅くはないと思って、恐る

B ② ○

恐る相談してみたら、〈2点〉

C ① ○

C ② ○

よく来て下さいましたと歓迎されたうえに、お金を貸して下さいことになり、〈2点〉

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

D ① ○

D ② ○

喜びの一方で、世の中にはこんな物好きな人もいるのだと驚いてしまったから。〈2点〉

Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点 (9点)

【構造点】

・Xは、傍線部おける「お繁婆さん」の行動の理由を、事の発端Aから生起した、B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明してゆく〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈条件A、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているとみなして1点加点。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 〈A、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 ○1点

・Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここではDの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが暗黙裡に構想されているとみなして1点加点。

Y 〈総合〓まとめること〉 Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、C、D内では、この文書冒頭に示した「◎ 内容点の採点に関する基準」に則した形で、部分採点可能。(7点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件・要素の組み合わせによる、また要素による意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点)

A 「末娘の孝子が政五郎さん夫婦なら助けてくれるかもしれないと言うので、」へ1点

※ 傍線部おける「お繁婆さん」の行動の理由を説明するための、事の発端の条件。

○ 「末娘の孝子が政五郎さん夫婦なら力になってくれるかもしれないというので、」
「政五郎さん夫婦なら相談に乗ってくれるかもしれないと末娘が言うので、」なども可。

× 「末娘が政五郎夫婦への相談をもちかける」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「駄目でもともと、駄目なら断られてから一家で首を吊っても遅くはないと思って恐る恐る相談してみたら、」へ2点

※ 傍線部おける「お繁婆さん」の行動の理由を説明するための、事の発端Aから生じた一方の条件(マイナス)。

① 「駄目でもともと、駄目なら断られてから一家で首を吊っても遅くはないと思って」の要素。

○ 「駄目でもともと、一家で首を吊るのはそれからでもいいと思って、」一家で首を吊るのはいつでもできるから、駄目でもともと、相談してみるかと思つて、

× 「駄目でもともと、首を吊るのはそのあとでもいい」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「恐る恐る相談してみたら、」の要素。

○ 「藁にも縊りつくような気持ちで相談に行つたら、」相談に乗ってくれば奇跡が起きたにも等しいという思いで出かけてみたら、」なども可。

× 「恐る恐る相談」のニュアンス成分が入っていないければ×。

C 「よく来て下さいましたと歓迎されたうえに、お金を貸して下さいることになり、」へ2点

※ 傍線部おける「お繁婆さん」の行動の理由を説明するための、事の発端Aから生じた、Bとはへ矛盾する他方の条件(プラス)。

① 「よく来て下さいましたと歓迎されたうえに、」の要素。

○ 「恐れ多いくらい丁寧な扱いを受けて、」よく来て下さいましたと歓待されて、

× 「歓待」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「お金を貸して下さいることになり、」の要素。

○ 「借金の申し出を受け入れて下さることになり、」借金のお願いを受けて下さることになり、」などでも可。

× 「お金を貸して下さい」のニュアンス成分が入っていないければ×。

D 「喜びの一方で、世の中にはこんな物好きな人もいるのだと驚いてしまったから。」へ2点

※ B、Cをまとめて、傍線部おける「お繁婆さん」の行動の直接的な理由となる条件。

① 「喜びの一方で、」の要素。

○ 「喜ぶ一方で、」「有難く思う一方で、」

× 「喜び」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「世の中にはこんな物好きな人もいるのだと驚いてしまったから。」の要素。

○ 「こんな物好きな人がいるもんだと驚いてしまったから。」「こんな風変わりな人もいるのだと驚いたから。」などでも可。

× 「物好きな人に驚く」のニュアンス成分が入っていないければ×。

問四 9点

(模範解答例)

A ①○

A ②○

家にはかなりの借金があり、幼い子供たちもいる。〈2点〉

B ①○

B ②○

その愛する妻や子供の行く末を案じながら死なねばならない 過酷な運命に思い悩みなが

らも、〈2点〉

C ○

もう一度元気になって、いつまでも家族と一緒に暮らしたいと思う。〈1点〉

X 〓逆説〓矛盾を含むこと〓○1点

D ①○

D ②○

妻や子供の平安を願う祈りにも似た言葉であり、父の魂からの悲痛な最後の叫び声だっ

た、と思った。〈2点〉

Y 〓総合〓まとめること〓○1点 (9点)

【構造点】

・Xは、傍線部の「父」の言葉に対する「私」の受取り方を説明すべく、状況のAに対する、B、Cの〓矛盾〓する二条件である「父」の心情に引き裂いて説明して行く〓逆説〓矛盾を含むこと〓の構造への評価である。ここでは、〓Aの要素、Bの要素、条件C〓のうちの二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X 〓逆説〓矛盾を含むこと〓 〓Aの要素、Bの要素、C〓の内の二種二つ以上 ○1点

・Yは、条件B、Cをまとめて条件Dに結論づけていく、〓総合〓まとめること〓の構造への評価である。ここではDの要素が一つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y 〓総合〓まとめること〓 Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件A、B、D内では、この文書冒頭に示した「◎ 内容点の採点に関する基準」に則した形で、部分採点可能。(7点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要素、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点)

A 「家にはかなりの借金があり、幼い子供たちもいる。」〈2点〉

※ 傍線部の「父」の言葉に対する「私」の受取り方を説明するための状況の条件。

① 「家にはかなりの借金があり、」の要素。

○ 「多くの借金が家にはあり、」家の借金も大きく、」などでも可。

× 「家に(かなりの)借金があり、」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

② 「幼い子供たちもいる。」の要素。

○ 「子供たちはまだ幼い。」「幼い子供たちを残していくことになる。」などでも可。

× 「幼い子供たち」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

B 「その愛する妻や子供の行く末を案じながら死なねばならない過酷な運命に思い悩みながらも、」〈2点〉

※ 状況Aに対する「父」の一方の心情の条件。

① 「その愛する妻や子供の行く末を案じながら死なねばならない」の要素。

○ 「その愛する妻や子供の将来を気にかけてながら死んで行かねばならない」「妻や子供らの未来を心配しながらこの世を去らなければならない」などでも可。

× 「妻や子供の行く末を案じながら死ぬ」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

② 「過酷な運命に思い悩みながらも、」の要素。

○ 「残酷な運命を嘆きながらも、」「酷い運命に苦しみながらも」などでも可。

× 「過酷な運命に思い悩む」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

C 「もう一度元気になって、いつまでも家族と一緒に暮らしたいと思う、」〈1点〉

※ 状況Aに対する「父」の、Bとは〈矛盾〉する他方の心情の条件。

○ 「元気を取り戻して、家族みんなといつまでも暮らしたいと思う」「再度元気になって、家族みんなといつまでも暮らしてゆきたいと思う」などでも可。

× 「元気になって、家族みんなと暮らしたいと思う」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

D 「妻や子供の平安を願う祈りにも似た言葉であり、父の魂からの悲痛な最後の叫び声だった、と思った。」

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「妻や子供の平安を願う祈りにも似た言葉であり、」の要素。

○ 「妻子の安泰を願う祈りの言葉であり、」「妻と子が安らかに生きて行けるよう

に願う言葉であり、「などでも可」。

× 「妻子の平安を願う(祈る)言葉」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「父の魂からの悲痛な最後の叫び声だった、と思った。」の要素。

○ 「父の魂から上がってきた深い悲しみの叫び声だったと、思った。」「父の魂が叫ばせた悲痛な声だったと、思った。」などでも可。

× 「父の魂からの悲痛な叫び声」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

★2022年度第2回 阪大本番レベル模試(文)

目 (古文『松浦宮物語』) 採点基準 ※40点満点

問一 (ア) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕

A 便なくも B のたまはせしかば、

〔模範解答〕

A 不都合なことに B おっしゃったので、

〔ポイント〕

要素 A 〔1点〕 便なくも ↓ 不都合なことに

※「不都合・都合が悪い・よくない・適当でない」等の意があればよしとする。

要素 B 〔1点〕 のたまはせしかば、 ↓ おっしゃったので、

※「おっしゃる(言いなざる・お言いになる)」「+過去」「た」「+」ので・から・ところ」で 〔1点〕。要素が一つ欠けたら×。

問一 (イ) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕

A | なべてならず B | おもしろき。

〔模範解答〕

A | 並々でなく B | 趣がある。

〔ポイント〕

要素 A [一点] なべてならず ↓ 並々でなく

※ 「並々でない・尋常でない・普通でない・格別だ・特別だ」等の意があればよしとする。

要素 B [一点] おもしろき ↓ 趣がある

※ 「趣(趣き) 深い・趣がある・風情がある・風流だ」等の意があればよしとする。

問一 (ウ) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 2点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕

A | かたみに B | 文作り交して、

〔模範解答〕

A | 互いに B | 漢詩を作り交して、

〔ポイント〕

要素 A 【一点】 かたみに ↓ 互いに

※ 「互いに」の意があればよい。

要素 B 【一点】 文作り交して ↓ 漢詩を作り交して

※ 「漢詩（漢詩文）」 + 「作る（詠む・吟ずる）」 + 「交わして」で【一点】。要素が一つ欠けたら×。

問二 (a) 傍線部を、二つある「別れ」の違いを明らかにして、現代語訳しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕

A2 知らざりし B1 別れに C1 添へる D1 別れ E1 かな

〔模範解答〕

A2 かつて経験したこともなかった B1 我が子との (A) 悲しい (B) 別れに、 C1 さらに加わった D1 我が妻との別れ E1 であるよ。

〔ポイント〕

要素 A 【2点】 知らざりし ↓ かつて経験したこともなかった ↓ 悲しい

※ 「かつて経験したこともなかった」に相当する意があれば【1点】。

※ 「悲しい・つらい・苦しい」等の意があれば【1点】。

要素 B 【1点】 別れに ↓ 我が子との ↓ 別れに、

※ 「我が子（少将）との別れ」の意があればよい。BとDの位置（子との別れが先、妻との別れが後）が逆の場合は×。

要素 C 【1点】 添へる ↓ さらに加わった

※ 「加わる・添える・伴う」等の意があればよい。

要素 D 【1点】 別れ ↓ 我が妻との別れ

※ 「妻（宮）との別れ」の意があればよい。BとDの位置（子との別れが先、妻との別れが後）が逆の場合×。

要素 E 【1点】 かな ↓ であるよ。

※ 詠嘆の訳「〜なあ・〜よ」等があればよい。

問二 (b) 傍線部を、「物思ふ」が何についてのどのようなものかを明らかにして、現代語訳なさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕

A2 命にまさる

(B1)

(C2)

D1 物思ふらん

〔模範解答〕

A2 命を失うことにもまさる、

B1 つらくて悲しい、

C2 我が子との別れについての

D1

物思いをするのでしょうか。

〔ポイント〕

要素 A 【2点】 命にまさる ↓ 命を失うことにもまさる、

※ 「命を失う以上に・死にもまさるほどの」等の意があれば【2点】。

※ 右の意がなく、「命以上の・命より重い・命より大事な」等の意があれば【1点】。

要素 B 【1点】

「」のようなものかの「補い」 ↓ つらくて悲しい、

※ 「物思い(悩み・苦悩)について」「つらい・悲しい・苦しい(苦悩)」等の説明があればよい。

要素 C 【2点】

「何について」の「補い」 ↓ 我が子との別れについての

※ 「物思い(悩み・苦悩)」が「子(少将)との別れ」に関するものであるという説明があれば【2点】。

※ 右の意がなく、「子(少将)」に関するものであるという説明がある場合は【1点】。

要素 D 【1点】 物思ふらん ↓ 物思いをするのでしょうか。

※ 「物思いをする(悩む・苦悩する)」「+推量」「〜だろう・〜いるだろう」等で【1点】。要素が一つ欠けたら×。

※ 「物思いをする(悩む・苦悩する)」が単に「物を思う・考える」等となっている場合は×。

問三 傍線部を、「人」が誰を示すかを明確にして、現代語訳しなさい。

基準 配点 4点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕

A 人のところ **D** や **B** 通ふ **C** らん

〔模範解答〕

A 神奈備の皇女 **B** の心がここまで通って来て **C** いるからだろう **D** か。

〔ポイント〕

要素 **A** 【一点】 人 ↓ 神奈備の皇女

※ 「神奈備の皇女」は「皇女」でもよい。

要素 **B** 【一点】 のところが通ふ ↓ の心がここまで通って来て

※ 「の心(愛情・自分への思い)が通う・と心が通う(通じる・通じ合う)」「等の意があればよい。

※ 「ここまで」の意の有無は不問。

要素 **C** 【一点】 らん ↓ いるからだろう

※ 推量の意「〜だろう(でしょう)・はずだ・に違いない)・〜からだろう・〜いるだろう」があればよい。

要素 **D** 【一点】 や ↓ か

※ 疑問の意「〜か」があればよい。

問四(一) 傍線部について、動作主(主語)や対象となる人物を明確にして、どのようなことをいっているのか、わかりやすく説明しなさい。

基準 配点 9点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

「傍線部」 遠くも遣はさず、宮近きあたり、時の大臣におほせられて、さるべき心まうけども、えも言はずせさせ給い。

「模範解答」 A2 皇帝が、B2 少将を、C2 遠くへ行かせることなく宮殿の近くに住まわせ、D1 大臣に命令して、E2 () 住居などの生活への () 心配りも、この上なく十分にさせた、ということ。

「ポイント」

要素 A【2点】 皇帝が、

※ Cの主語として「皇帝(唐の皇帝・帝)」があればよい。

要素 B【2点】 少将を、

※ Cの対象となる人物として「少将」が説明されていればよい。

要素 C【2点】 遠くへ行かせることなく宮殿の近くに住まわせ、

※ 「宮殿の近くに住まわせる(いさせる)」の意があれば、「遠くへ行かせない」の意がなくても【2点】。
※ 右の意がなく、「遠くへ行かせない・近くに仕えさせる」等の意がある場合は【1点】。

要素 D【1点】 大臣に命令して、

※ 「大臣に命令して」の意があればよい。

要素 E【2点】 () 住居などの生活への () 心配りも、この上なく十分にさせた、ということ。

※ 「心配りする(世話する・接待する・取り計らう・大切にする・寵愛する)」等の意があれば【1点】。

※ 右の意がある上で、「この上なく・十分に・すばらしく・口では表現できないほどに」等があれば【2点】。

※ 「住居などの生活への」等、「心配り(世話・接待・取り計らい・大切にする)」の内容の具体的な説明の有無は不問。

問四 (2) 傍線部について、なぜそのような行動をとったのか、わかりやすく説明しなさい。

基準 配点 9点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

「傍線部」 遠くも遣はさず、宮近きあたり、時の大臣におほせられて、さるべき心まうけども、えも言はずせさせ給い。

「模範解答」 **A1** 少将が、**B2** まだ十七才という、子供と言ってもいい若さであるのに、**C2** 学才がたいそう優れている上に、**D2** 容貌までも実に素晴らしいことに、**E2** 皇帝が感じ入り、少将を気に入ったから。

「ポイント」

要素 **A** 【1点】 少将が、

※ **B** ～ **D** の主体として「少将」が説明されていればよい。 **B** ～ **D** がいずれも0点の場合は得点できない。

要素 **B** 【2点】 まだ十七才という、子供と言ってもいい若さであるのに、

※ 「十七才・子供っぽい・若い」等の意があればよい。

要素 **C** 【2点】 学才がたいそう優れている上に、

※ 「学才がある・優秀だ・賢い・(漢詩・音楽などの)才能がある」等の意があればよい。

要素 **D** 【2点】 容貌までも実に素晴らしいことに、

※ 「容姿が素晴らしい・容貌が優れている・美しい」等の意があればよい。

要素 **E** 【2点】 皇帝が感じ入り、少将を気に入ったから。

※ 「皇帝(帝)が感動したから・皇帝(帝)が気に入ったから・皇帝(帝)が賞賛したから」等の意があればよい。「かわいそうに思ったから」等は **X**。

※ 「皇帝(帝)が」が明らかでない場合は【1点】。

※要素別に採点する場合、各要素の最低点は0点とする(減点の結果、ある要素が0点以下になってもその要素は0点)。

大問四 問一

基準 配点:5点

■形式上の不備

・句読点の有無は問わない。

■模範解答

李氏が

5点

何という名であったのかはわからないということ。

■採点方法:

*主語(「李氏が」)の有無は問わない。

*「名が分からない」「名が知られていない」「名は忘れられている」という意味の表現であれば可。

*「(宣室志の)作者は名を知らない」「作者は名を忘れてしまった」のような表現でも可。

*「名」は「本名」「名前」「下の名」も可とする。

大問四 問二

基準 配点：5点

■形式上の不備

- ・ 句点の有無は不問
- ・ ひらがな以外を用いている場合は (b) 〓 0点。

■模範解答

いまだかつ (つ) てねこをやしなは (わ) ず。

■採点方法

- ・ 解答例のみ正解。
- ・ 一字でも誤りがあれば問二 〓 0点。

大問四 問三

基準 配点：8点

■形式上の不備

・句点の有無は不問。

■模範解答

A 2点

李氏とその親戚や友人たちの気をひいて、

B 3点

まもなく崩れてしまう建物から

C 3点

彼らを外に出すため。

■採点方法：各要素単独採点

要素A 李氏とその親戚や友人たちの気をひく 2点

・「李氏とその親戚や友人たち」は、「李氏」「李氏たち」「李氏とその親戚」「李氏とその友人」「建物の中にいる」人々」なども可。

・「李氏の友人」「李氏の親戚」など（「李氏」を含まないと解釈できるものは**要素A 1点減点**。

・「気をひく」は、「関心を持たせる」「面白がらせる」「興味をひかせる」「（様子を）見に来させ」「目をひく」なども可。この要素がないものや、誤っているものは**要素B 1点減点**。

要素B まもなく崩れてしまう建物から 3点

・「まもなく崩れてしまう」は、「崩れそうな」な（建物が）崩れることを察知して」なども可。

・「崩れる」「倒壊する」要素がないものは**要素B 1点減点**。

・「まもなく」「～そうな」「察知する・予知する」要素がないものは**要素B 1点減点**。

・「建物から」は、「堂から」も可とする。

・「建物から」「堂から」の要素がないものは**要素B 1点減点**。

要素C 彼らを外に出すため 3点

・「外に出す（出させる）」要素を欠き、単に「逃れさせる」「避難させる」「（命を）助けようとした」としているものは**要素C 2点減点**。

・「外に出す」要素も、「逃れさせる」「避難させる」「助ける」要素も欠いているものは**要素C 加点なし（要素C＝0点）**。

・「彼ら」は「李氏とその親戚や友人たち」「李氏」「李氏たち」「李氏とその親戚」「李氏とその友人」「（建物の中にいる）人々」なども可。

・「李氏の友人」「李氏の親戚」など（「李氏」を含まないと解釈できるものは**要素C 1点減点**。

・「外に出す」「避難させる」の目的語（～を）を全く欠いているものは**要素C 1点減点**。

大問四 問四

基準 配点…7点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は不問
- ・敬語表現の有無は不問

■模範解答

A 1点

まして、

B 4点

人間が恩を知り、恩返しを知ることができるのは

C 2点

当然である。

■採点方法：各要素単独採点

要素A 「沉んや」の訳 まして 1点

- ・「ましてや」も可。

要素B 「人間が恩を知り、恩返しを知ることができるのは」の補い 4点

- ・「人間」は「人」も可。

- ・「人間（人）が」の要素を欠くものは**要素B 2点減点**。

- ・「恩を知り、恩返しを知る」は、「恩と恩返しを知る」のような書き方でも可。

- ・「知る」は「理解する」なども可。

- ・「恩返しを知る」は、「恩返しをする」としても可。

- ・「できる」を欠くもの（「能く」をそのまま「よく」と訳しているものも含む）は**要素B 1点減点**。

- ・「恩を知る」という表現はないが、「恩を受けたら恩返しをする」「恩を受けた後で恩返しをする」

という形で「恩を知る」を言い換えているものは**要素B 1点減点**。

- ・「恩を知る」という表現も、その言い換えもないものは**要素B 2点減点**。

- ・「恩返しを知る（する）」要素を欠いているものは**要素B 2点減点**。

要素C 「当然である」の補い 2点

- ・「である」は「だ」も可。

- ・「なおさらである（なおさらだ）」「もちろんである（もちろんだ）」「言うまでもない」なども可。

- ・「人間は当然（なおさら・もちろん・言うまでもなく）くだ」という書き方でも可。

基準 配点：10点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は問わない。
- ・文末表現は基本的には問わない。ただし、「どのような行為を『公』と評価しているのか」という設問形式に明らかにそぐわない文末表現（「くから」など）は全体から1点減点。

■模範解答

李氏が、鼠を殺さないように猫を飼わなかったことと、鼠がその恩恵に対し、李氏とその親戚や友人を、まもなく崩れてしまう建物から出るようにしむけ、命を救うことで恩返ししたこと。

要素A 「李氏の恩」の説明 李氏が、鼠を殺さないように猫を飼わなかった 4点

要素B 「鼠の報恩」の説明1 鼠が（李氏に）恩返しした 2点

要素C 「鼠の報恩」の説明2 李氏とその友人・親戚を、まもなく崩れてしまう建物から出るようにしむけた 2点

要素D 「鼠の報恩」の説明3 （李氏とその友人・親戚の）命を救った 2点

■採点方法：各要素単独採点

要素A 「李氏の恩」の説明 李氏が、鼠を殺さないように猫を飼わなかった 4点

・主語(「李氏」)を欠いているものは**要素A 1点減点**。

・「鼠を殺さない」要素を欠いているものは**要素A 2点減点**。

・「猫を飼わない」要素を欠いているものは**要素A 1点減点**。

要素B 「鼠の報恩」の説明Ⅰ 鼠が(李氏に)恩返しした 2点

・主語(「鼠」)を欠いているものは**要素B 1点減点**。

・「恩返しした」は、「恩を返した」「恩に報いた」なども可。

要素C 「鼠の報恩」の説明Ⅱ 李氏とその友人・親戚を、まもなく崩れてしまう建物から出るようにしむけた 2点

・「李氏とその友人・親戚」は、「李氏」も可。

・ただし、「友人・親戚」「人々」など、「李氏」を含んでいないものは**要素C 1点減点**。

・「まもなく崩れてしまう建物から出るようにしむける」は、「倒壊しそうな建物から出す(逃れさせる・避難させる)」「建物の倒壊から避難させる」なども可。「まもなく崩れてしまう建物から」は、「建物が倒壊することを予知(察知)し」のような表現でも可。

・「まもなく崩れてしまう建物から出るようにしむける」要素を欠いているものは**要素C 加点なし**。

要素D 「鼠の報恩」の説明Ⅲ (李氏とその友人・親戚の)命を救った 2点

・「命を救った」は、「助けた」「負傷しないようにした」意の表現でも可。